

鈴木翔太投手に質問する引佐南部中野球部の生徒ら＝18日、名古屋市東区のナゴヤドームで



練習法教えて「翔太先生」

浜松市北区の引佐南部中学校の野球部員たちが十八日、プロ野球中日ドラゴンズのオープン戦が行われたナゴヤドーム（名古屋市東区）を訪れた。浜松市浜北区出身の鈴木翔太投手（三ノ宮聖隷クリストファー・高出）に練習法や選手としての心構えを聞き、野球への意欲を新たにしました。

二年生十人と、この春に卒業した一人の計十二人が参加。オリックスとのオープン戦の試合前練習を終えた鈴木翔太投手に質問をぶつけた。

鈴木投手は昨年けがをして練習が思うようにできなかった時期に、他の選手の投球を動画サイトで見てモチベーションを上げた経験を紹介。「自分に足りなかった部分も見えて、具体的に

浜松の中学野球部員ら交流

に今の好調につながった。ピンチこそ成長のチャンス」と話した。

「ストレッチをする時、限界のところ一度息を止めてから息を吐くと、さらに体が伸びて体が柔らかくなる」など具体的なアドバイスもあり、生徒らはメモを取りながら聞き入っていました。

プロ野球選手が夢という野末晃成さん（二年）は「走り込めば走り込んだ分だけ足は速くなる、という言葉が一番印象に残った」と振り返った。

訪問は、浜松市の地域活性化団体「はままつ応援隊」に参加するプロパンガス販売の「エネシン」（同市中区）が、地域の中学生の部活動支援の一環として企画した。（安達健）